----------*11月9日*----------

※　今週のアウトルック（11/9～11/13）

先週末の米国雇用統計の失業率は、ついに10%を超えました。
FOMCと雇用統計の結果を予想する動きから、様々な駆け引きが交錯する一週間でしたが、雇用統計が予想以上の悪化にも関わらず、NYダウは一時急落後、ある程度回復して1万ドル台をキープしています。このあたりを下値では買い意欲が旺盛と解釈するか、投機的な駆け引きと解釈するかで、今週の予測は大きく変わるところだと思います。

ドル円はNYダウの動きにそれほど大きく左右されることはなく、90円から91円あたりの狭いレンジでの動きとなりました。
週末はギリギリ90円を割って終わっています。
今週は再び90円から93円あたりのレンジに戻ってしまうのか、それとも90円われから87円あたりをうかがう動きになるかは、判断が難しいところにあると思います。米国債の入札状況にも左右されそうですが、確率的には五分五分と見ています。
予想レンジは88.5円から92円です。

ユーロ円もレンジから下抜けすることなく、再び135円あたりまで戻してきました。週末には133.5円まで下落して終了していますが、このまま132円以下を目指すのか、それとも135円以上を目指すのか難しい位置にあるように思います。確率的にはユーロドルの状況から考えて、132円割れを目指す確率の方が少し高いようにも思います。
予想レンジは131円から135円と考えています。

ポンド円はﾌｧﾝﾀﾞﾒﾝﾀﾙｽﾞでもﾃｸﾆｶﾙでも判断しかねる動きをしているようにも思います。NYダウ同様、投機を目的とした動きに大きく左右されているようで、通常の感覚では判断しないほうが良さそうです。147円から152円あたりに収まってしまう可能性が高いかもしれません。

相変わらずNYダウは、マクロ指標の悪化にかかわらず、売られれば大きく買われてしまう展開が続いています。この状況に変化がない限り、為替も大きなトレンドが発生することは難しいのかもしれません。通常の考え方にあまりこだわらないほうが良いように思います。

＊免責事項＊
当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。